



すえ むね

大分県議会議員 5期

末宗 ひでお

大分県議会議員 末宗 秀雄

SUEMUNE HIDEO
KENSEI REPORT Vol.2

県政の目指すべき方向について!!

県事業で第一子に50万円、第二子に100万円、第三子に150万円を支給すべき!

人口減少・過疎化について

大分県は現在人口、約110万人であり、人口減少の一途を辿っています。また、農村部に目を向けると過疎化がかなり進行している状況にあります。このような状況を、劇的に改善ということは難しく、しっかりと施策を打っていくことが重要です。

現在、県では、若者の出会いへの支援、多子世帯等の経済的な負担の軽減、企業内保育所を含めた保育所等の整備、相談体制の充実などを国の政策と連携する形で推進し、子育て環境を整備しているところですが、まだまだ足りていないと私は思います。

他の地域では、大胆な施策を行っており、例を挙げると愛知県豊根村では譲渡型定住促進住宅(30年住み続けると家が貰える)といったことをしています。

私はこのような施策を大分県でも行うべきであり、また子育て世代の負担軽減策として県事業で第一子に50万円、第二子に100万円、第三子に150万円を支給するなど思い切ったことをしなければ、改善しないと思います。今後も執行部に粘り強く訴えていく所存です。

都市部中心の予算から地方重視の予算に転換!

地域経済について

大分県には学生、主婦層、アクティブシニア層、兼業・副業希望者などポテンシャルの高い人材が豊富にいます。希望の仕事に就けることでそれぞれの満足度を上げ地域外への流出を抑えることが期待できます。

また、地域の人材がどのような仕事を希望しているかを分析することで、IT等誘致したい企業像が見えてきます。企業側としても進出を検討する上で継続的に欲しい人材が確保できるという点を重要視すると考えます。

したがって、世代を問わず様々な方に意見を聞き、それを集約することで、誘致したい業態がわかり、そこから企業に対して積極的に誘致活動をしていくことが出来ると思います。

私は、地域の経済活性化は企業誘致が最も効果が発揮されるものと考え、企業誘致活動を執行部に訴えています。

全県一区廃止により、地方高校の定員割れ解消!

教育について

大分県では平成20年度入試から始まった普通科高校の通学区域制度の撤廃(全県一区)を行なったことにより、毎年行われる高校入試では定員割れとなる学校があり、地方では、二次募集を行っても受験生が集まらない高校があります。

特に、普通科は全県一区になって、生徒は進学率や就職率が高い高校を選択して進学する傾向があります。また、地方の商業、工業系高校の学科廃止により、働き手不足や技術者不足に陥っており非常に厳しい状況にあります。

私は地方に光が当たるよう全県一区を廃止するとともに、地域の商業、工業系高校の学科復活をさせるべきと思い今後も活動していきます。



大分県議会議員 末宗 秀雄の取り組み 総務企画委員会視察



東京都 現代美術館にて

新進・若手芸術家の支援をしており、また子どもと大人の一般参加プログラム等、芸術教育に力を入れています。

総務省にて

大分県の課題を話し合い、意見・要望を申し上げました。



座来大分にて

大分県東京事務所より首都圏における県産品販路開拓の取り組みについて説明を受けました。座来大分が益々発展することを期待します。

福島県いわき市にて

いわき市役所の方からいわき版MaaS推進プロジェクトについて説明を受け、大分県の行政や観光に活かすことで発展が期待できます。

MaaSとは、「Mobility as a Service」の略。従来の交通手段・サービスに、自動運転やAIなどのさまざまなテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービスです。



末宗秀雄の実績



道の駅うさ(仮称)構想を 県議会で質問

数年度中に岩崎地区に完成予定です。(観光政策)



駅館川緊急農地再編事業

農業の振興と地域の活性化に資することを目的としています。(農業政策)



宇佐本耶馬溪線

自転車歩行者道の整備により、通学生等の安全・安心な通行空間が確保されます。(交通政策)



寄藻川、向野川等の河川浸漬

氾濫の危険性がある、河川を浸漬することにより、未然に水害を防ぎます。(防災政策)



特定不妊治療費等助成事業

不妊治療中のご夫婦の経済的負担の軽減を図り、特定不妊治療(体外受精・顕微授精)の費用一部を助成しています。(福祉政策)